

1. 件 名：実機材研究に関する意見交換
2. 日 時：令和4年8月31日(水)13時45分～14時0分
3. 場 所：原子力規制庁 16階C会議室（web開催）
4. 出席者

原子力規制庁長官官房技術基盤グループシステム安全研究部門

橋倉主任技術研究調査官

北條主任技術研究調査官

水田技術研究調査官

渡辺技術研究調査官

船田技術参与

高倉技術参与

原子力エネルギー協議会：1名

九州電力株式会社：2名

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構：2名

5. 要旨

原子力規制庁（以下「規制庁」という。）が実施している安全研究プロジェクト「実機材料等を活用した経年劣化評価・検証に係る研究」の「原子炉圧力容器の健全性評価に係る研究（2020年度～2024年度）」において、監視試験片を使用した研究を実施するため、九州電力株式会社（以下「九州電力」という。）及び国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（以下「JAEA」という。）と意見交換を行った。

規制庁は、本研究を行うに当たり、監視試験片を九州電力玄海原子力発電所からMHI原子力研究開発株式会社に輸送することを計画している。

九州電力より、監視試験片の輸送にあたっては、監視試験片とエクステンションチューブを切り離して輸送する必要があること、エクステンションチューブは九州電力玄海原子力発電所で保管する必要があること、また、保管には専用の保管容器が必要であることについて説明があった。

規制庁は、委託先であるJAEAが九州電力の保有する保管容器を購入することを提案するとともに、当該容器を用いてエクステンションチューブを九州電力で保管して欲しい旨を伝えた。九州電力より、了解したとの回答があった。また、保管されたエクステンションチューブは、試験後の監視試験片と同様の扱いで九州電力に返却することを確認した。さらに、監視試験片の返却時期についても確認を行い、詳細については、研究の進捗に応じて、今後の面談で確認したいと伝えた。九州電力より、了解したとの回答を得た。

6. その他

提出資料：特になし。